



新しい春の出発

校長 池田 和彦

淡い薄紅色の桜の花びらが散り始め、同時に芽吹き初めた葉の色と重なり合い、校長室から遠目に見える桜の美しさはまた格別なものです。日本人の意識の中には、古来から桜への愛着が組み込まれているようです。今年は若葉の芽吹きも早く、色鮮やかな春の花々が咲き誇る校庭は、元気な子供たちであふれる日々を待っていました。

「毎日毎日の足跡がおのずから人生の答えを出す」相田みつをの言葉です。これからの未来に向けて自らの意思で歩み出す子供たちにとって、とても大切な言葉だと思います。

東京都には子育てに向けた 7 つのよびかけがあります。

「毎日きちんと挨拶させよう。他人の子供でも叱ろう。子供に手伝いをさせよう。ねだる子供に我慢をさせよう。目上の人を敬う心を育てよう。体験の中で子供を鍛えよう。子供にその日の事を話させよう。」

日々の生活の中で大切にし、大人の責任として実践させていこうとするもので、相田みつをの言葉に重なります。児童生徒の健やかな成長は、家庭と地域と学校が一体となって子供を見守り、互いが協力・連携を図りながら育むことで実現できると思います。本年度も格段のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

保護者の皆様、お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。新 1 年生 45 名、新 7 年生 57 名を迎え、令和 5 年度がスタートしました。本校の教育活動の推進に向けて、長年尽力いたしました教職員が退職、異動となり、今年度新たに 14 人の教職員を迎え、新しい春に新しい出発をいたします。今年度の教育活動につきましては、区の方針を受け、消毒、換気などの感染予防対策をした上で、可能な限り通常どおり実施することにいたします。教職員一同、開校以来積み上げてきた本校のすばらしい教育活動を継承するとともに、全力を尽くして、さらなる教育の推進を目指します。

目指す学校像

「失敗しても挑戦できる、希望と粘り強さを学べる学校」（ピンチはチャンス）

「その日の授業で分からないことはその日のうちに分かるまで教える学校」（学力向上）

「小中一貫教育 9 年間にふさわしいカリキュラム開発に取り組む研究熱心な学校」（研究）

「人権感覚を磨きいじめを絶対に許さない学校」（児童・生徒会の活動促進）

一人一人の児童生徒は、無限の良さや可能性をもっています。それを最大限に引き出し、伸ばしていくことが学校の責務であり、子供の「分かってほしい、できるようになりたい、よりよく生きたい」という本質的な願いを真摯に受け取め、知・徳・体の調和のとれた児童生徒を育てることが教職員の使命だと考えています。そして、すべての子供が生き生きと主体的に学び、楽しく生活を送ることができるよう、そして保護者や地域の願いや期待に応えることができるよう、教職員一致団結して取り組んでいきます。今年度もよろしくお願いいたします。

取 り 組 む べ き 重 点1～8

1 異年齢集団の交流と学び合いを生かした教育活動の推進

- ◎入学式、卒業式などの儀式的行事や児童生徒会の主催行事、委員会活動、クラブ活動、部活動、などを通して、異学年同士の学び合いを充実させる。
- ◎運動会、桜祭の清新・澁刺とした発表形態を工夫改善し、充実した取り組みとする。(5月、10月)
- ◎複数学年による縦割り遠足・飯盒炊さん・交流給食・ふれあい給食等の交流活動の充実を図る。
- ◎最高学年9年生を学校のリーダー像とした、望ましい人間関係を醸成する。

2 指導方法の工夫・改善に努め、児童・生徒の能力の一層の伸張を目指す。

- ◎「命の教育」の一つの柱である「特別な教科 道徳」について小中一貫教育校の特色を生かした授業に取り組み、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
- ◎自律的、協働的な学びを育む授業の創造を目指した授業研究に取り組み11月に研究発表を行う。
- ◎学力の向上を図るために、タブレットを活用した授業を積極的に行うとともに、個別学習室を活用した補充学習、学習ボランティア等の取り組みを拡大する。
- ◎西校舎で5、6年生の50分授業・10分休みをサイクルとした学校生活の更なる充実を図る。
- ◎5、6学年における一部教科担任制の推進(社会・理科)並びに理科TTによる実験及び算数・数学英語における少人数指導等の充実を図る。
- ◎地域人材、学校生活指導員等を活用し、児童生徒の生活支援及びその専門性を生かした教科指導、特別活動等の充実・発展を図る。
- ◎7年生を中心とした第Ⅱ期の指導内容の研究を推進する。(防災リーダー構想の継承発展)
- ◎学習指導要領のねらいに基づき自立的・協働的に学ぶ児童生徒の育成をめざした授業改善を図る。

3 日本の伝統・文化の理解を深め尊重する態度を育てる体験活動を充実させるとともに、「学校2020レガシー」の構築に向けた取組を行う。

- ◎「大泉桜の里」も活用し、命の教育やキャリア教育のシンボリックな存在として継承していく。
- ◎俳句づくり・百人一首、室町体験学習(華道・茶道・墨絵)能、狂言教室、伝統工芸体験、修学旅行・京都方面などの伝統文化教育の系統化を図る。
- ◎俳句づくり、百人一首・いろはかるたを活用し、日本語の美しさやリズムを体感させ、語彙力を高め言語活動の充実と自国文化理解を促進する。
- ◎5、6年生からの部活動の活性化を図る。(5、6年の入部率の向上)
- ◎都立大泉特別支援学校との交流を継続しながら、障害者理解を本校の「学校2020レガシー」に位置付け、共生社会を生きていくための社会性を養う。

4 児童生徒理解と健全育成を推進する。

- ◎「当たり前」にやるべきことは、当たり前にする(「あいさつ」「身だしなみ」「時間厳守」「整理整頓」など)基本的な生活習慣の徹底及び豊かな情操と礼儀やマナーなど節度ある態度を育む。
- ◎特別な支援を要する児童生徒理解と対応を図るために、定期的な校内委員会の充実を図る。
- ◎新型コロナウイルス感染予防対策を図り、状況に応じた教育活動の工夫改善に努める。
- ◎児童生徒会の活動を促進させ、いじめ根絶に向けた人権教育の充実に学校全体で取り組む。
- ◎危険を察知し、状況に応じて的確に判断し行動できる児童・生徒の育成を目指した防災訓練の研究開発を行うとともに、町会、区防災課との連携、地域・家庭を支援・啓発した訓練を実施する。
- ◎学校応援団・青少年育成委員会・青少年委員等との連携強化を図る。
- ◎標準服の着用率を高め、望ましい帰属感や連帯感を育てる。

5 望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、自己の生き方を考えさせる。

- ◎キャリア・パスポートの実施に向けて、共通理解を図り、9年間の系統的な指導を重視した取り組みに努める。
- ◎「職場体験・防災リーダー・大泉桜の里」等を生かした9年間を通したキャリア発達を支援する環境教育・食育・キャリア教育の充実を図る。
- ◎9年間を見通した大泉特別支援学校との交流教育の系統的なカリキュラムを作成し、活動の充実を図る。

6 小中一貫教育校としての研究成果を蓄積し、速やかに他機関等に提供できる体制を構築する。

- ◎練馬区教育課題指定校として、研究主題「自律的、協働的な学びを育む授業の創造」とした授業研究を推進し、11月に研究発表を行う。

7 練馬区初の小中一貫教育校にふさわしい配当予算執行と施設設備の充実。

- ◎特色ある学校づくりを目指し、前年度踏襲にとらわれない配当予算の執行と費用対効果の検証を厳正に行う。

8 業務委託会社(給食・用務)との的確な連携による学校運営の充実。

- ◎的確に情報提供を行い、適正な運営の支援を行う。